



りんくう本社工場（大阪府泉南市）
KINJI FACTORY りんくう泉南店

- 本社所在地：大阪府堺市西区
- 事業概要：中古衣類販売業
中古衣類輸出業
- 常時使用する従業員：387名
(2025年3月時点)
- 現在の売上高：49億円
(2025年3月期)
- 法人番号：5120101010071
- Web：https://www.fcdm.co.jp

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役会長
泉谷 康成

「誰かの」洋服を「誰かのための」洋服へと引き継ぐために

当社は、衣類に関するリサイクル資源の有効活用を通じて、廃棄衣料の削減やCO₂排出量の抑制を図るとともに、サステナブルファッションの普及、新たな雇用の創出など、持続可能な社会の実現に貢献してまいりました。私たちが目指すのは、単に「社会にあればいい存在」ではなく、「社会にとってなくてはならない企業」へと進化していくことです。これまで培ってきたリユース・リサイクルのネットワーク、そして社会的課題に正面から向き合う姿勢を武器に、より多くの人々に信頼され、選ばれる企業としてさらなる成長を目指していきます。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

当社は2033年に売上高100億円達成を目指し、全国規模の衣類回収ネットワークを確立。全国自治体との連携を強化することで、より多くの衣類を資源として再活用できる体制を構築します。また、リユース・リサイクルの多様な出口を創出し、地域に根ざした雇用と事業拡大を同時に進め、衣料循環の中核企業としてのポジションを確立していきます。

課題

- ・自治体や民間企業との連携体制の整備と信頼構築
- ・回収量増加に対応するインフラ、人材の確保
- ・リサイクル資材のコスト競争力強化
- ・リユース衣料及び再生素材の販路確保
- ・消費者意識の継続的な啓発と定着
- ・国や行政との制度面での連携強化

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

当社は2033年に向け、自治体や企業との連携による衣類回収網の全国展開を進めます。加えて、再生素材を活用した商品開発やアップサイクルによる高付加価値化を図り、販路の拡大と収益強化を目指します。
トレーサビリティの導入や業務の効率化、柔軟な働き方による人材確保・育成も推進し、持続可能な循環型事業モデルを確立していきます。

実施体制

本社にサステナブル事業推進室を設置し、回収・選別・販売・再資源化までを一元管理します。各地域にはエリアマネージャーを配置し、自治体・企業との連携や回収拠点の運営を支援。工場現場では品質管理と生産効率向上に重点を置き、人材育成と安全管理を徹底。全社横断でトレーサビリティと業務効率化を推進し、持続可能で実行力のある体制を構築します。

売上高100億円実現の目標と事業実施体制

当社は2033年までに売上高100億円の実現を目標とし、国内外を視野に入れた衣料循環型ビジネスの確立に取り組みます。その中核となるのが、リユース・リサイクルを軸とした全国展開と、広範なパートナーとの連携です。自治体や学校、アパレルメーカー、小売業、一般企業、消費者と一体となって衣類の回収を行い、選別・再資源化・再流通の各段階で付加価値を創出します。再利用可能な衣類は国内外のマーケットで販売し、販売できない衣料は反毛・アップサイクルなどを通じて再資源化。さらに、海外輸出や焼却・埋立処理されている廃棄衣料を当該サイクルに入れることで、焼却・埋立処理に係る自治体の負担を減らし、そのコストをリユース・リサイクル費用に充てることで、持続可能なサイクルの確立にもつなげていきます。

事業体制としては、2029年を目途にグループ企業の再編、本社に事業統括部門を置き、戦略・営業・物流・工場機能を有機的に連携。全国各地域にはエリア拠点を設置し、地域密着型の回収体制を構築します。工場では高精度な仕分けと再資源化のノウハウを活かし、効率的な循環システムを支えます。

これらを一体化させることで、全国で安定的かつ持続可能な衣料循環モデルを構築し、環境と経済の両面で価値を創出。100億円企業としての成長を実現します。

売上高

